

令和7年度 全国学力・学習状況調査 川島町の結果について

埼玉県教育委員会は、令和7年度に実施した全国学力・学習状況調査の結果を公表いたしました。公表された「教科に関する調査」の数値は、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕を測定した結果の一部です。同様に、「質問紙調査」の数値も〔学びに向かう力、人間性等〕を測定した結果の一部です。

本調査は、埼玉県教育委員会が公表している令和7年度全国学力・学習状況調査における本町の結果を解説したものです。

調査概要

- 調査実施日・・・令和7年4月17日（木）
- 調査対象・・・小学校第6学年及び、中学校第3学年
- 調査事項・・・「教科に関する調査」
 - 小学校は、国語、算数、理科の学力を、中学校は国語、数学、理科の学力を問いました。
 - 「質問紙調査」
 - 調査対象の児童生徒に関し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について、その状況を把握しました。
- 調査問題・・・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題しました。

小 学 校

「教科に関する調査結果（表）と考察」

＜国語＞ 知識及び技能では、(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の使い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項について、県平均を「やや下回る」(5ポイント未満)状態でした。

また、思考力、判断力、表現力等では、A話すこと C読むことについては、県平均を「やや下る」(5ポイント未満) B書くことについては、県平均を「やや上回る」(5ポイント未満)状態でした。

＜算数＞ A数と計算 B図形 C測定・変化と関係 Dデータの活用について、県平均を「大きく下回る」(5ポイント以上)状態でした。

＜理科＞ 「エネルギー」「生命」を柱とする領域では、県平均を「大きく下回り」(5ポイント以上) 「粒子」を柱とする領域では、県平均を「やや上回り」(5ポイント未満) 「地球」を柱とする領域では県平均を「やや下回る」(5ポイント未満)状態でした。

学力調査の概要 教科の正答率（％）

調査科目	川島町	埼玉県	全国
国語	65	68	66.8
算数	52	58	58.0
理科	54	58	57.1

「質問紙調査結果」※質問事項は、71項目からの抜粋 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」回答した児童の割合

	川島町	埼玉県	全 国
1 自分にはよいところがあると思う	92.5	88.5	86.9
2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	93.3	94.8	92.2
3 将来の夢や目標を持っている。	84.9	84.7	83.1
4 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。	79.3	81.6	78.1
5 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	77.3	84.8	81.7
6 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。	71.7	75.7	68.6
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	86.8	88.6	82.3
8 自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	85.8	89.3	83.3
9 国語の授業での学習は、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	87.7	92.1	90.4
10 算数の授業での学習は、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	91.5	93.0	91.6
11 理科の授業での学習は、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	86.8	81.7	79.9

(単位%)

中 学 校

「教科に関する調査結果（表）と考察」

＜国語＞ 知識及び技能では、(1)言葉の特徴や使い方に関する事項について、県平均を「やや下る」(5ポイント未満)状態でした。

また、思考力、判断力、表現力等では、A話すこと B書くこと C読むことについて、県平均を「やや下回る」(5ポイント未満)状態でした。

＜数学＞ A数と計算は県平均と同程度、B図形 C測定・変化と関係 Dデータの活用について、県平均を「やや下回る」(5ポイント未満)状態でした。

＜理科＞ 従前は、正答数・正答率をベースに結果が示されましたが、令和7年度「中学校理科」はI R Tに基づくスコアで示されました。これは、項目反応理論（I R T）という統計理論を用いて、生徒の学力を問題の難易度や特性に左右されずに、より正確に測定し、数値化するものです。学校（自治体）ごとの結果を、令和7年度の平均スコアを500として示されます。

学力調査の概要 教科の正答率等

調査科目	川島町	埼玉県	全国
国語(%)	53	55	54.3
数学(%)	48	50	48.3
理科(スコア)	489	502	503

「質問紙調査結果」※質問事項は、72項目からの抜粋 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合

	川島町	埼玉県	全 国
1 自分にはよいところがあると思う	90.0	88.0	86.2
2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	96.2	95.3	92.2
3 将来の夢や目標を持っている。	75.3	69.9	67.5
4 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。	85.4	81.7	79.2
5 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	80.7	81.0	77.5
6 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。	72.3	71.2	63.0
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	85.4	88.0	79.5
8 自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	87.7	89.9	84.3
9 国語の授業での学習は、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	95.4	89.5	88.3
10 数学の授業での学習は、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	78.5	74.3	75.2
11 理科の授業での学習は、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	73.0	64.2	63.4

(単位%)

考察と改善策

学力向上に向けた取組は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の育成と、「主体的に学習に取り組む態度」の育成という両面を重視して取り組んでいくことが重要であると捉えています。

教師の指導力向上（授業改善）と児童生徒の主体的な学習の構築を目指し、教育委員会では、「川島町授業スタンダード」(導入 学習課題の設定→計画・方向付け・ゴールの設定→展開 個人での追究・解決→ペアやグループ・全体での話し合い→終末 まとめ→振り返り)に基づいた授業展開を行うよう指導しております。

また、今年度は、町内の各小・中学校で「主体的に物事を捉え、自ら学ぶ子の育成」一言語活動の充実をとおして―を統一の研究テーマとして授業実践を重ねております。11月27日(木)には、中山小学校・西中学校が授業を公開し、他校の全教員が参観します。その後、研究会を設け授業改善の推進に努めて参ります。

ご家庭での協力依頼

調査結果からは、子ども達の家庭における生活習慣（読書活動、学習時間、スマホ・ゲーム使用時間等）や学習習慣と各教科の平均正答率には相関性が見られました。ご家庭におかれましては、生活習慣や学習環境等に一層目を向け、子ども達と向き合う時間を大切にしてくださいようお願いいたします。

本町の教育の基本理念「共に学び 絆を深め 未来を拓く かわじま教育」(川島町教育大綱)の推進に向け、保護者・地域の皆様のますますのご理解とご協力をお願い申し上げます。